

インフルエンザのはなし

インフルエンザはインフルエンザウイルスによる感染症で、多くは自然に回復する。しかし乳児、妊婦、高齢者や糖尿病、喘息などの基礎疾患を持つ者では重症化することがある。ウイルスの感染は上気道の粘膜に限られるが、全身症状を呈する。これは感染症細胞が全身の炎症を引き起こすサイトカインという物質の産生を誘導するためである。抗ウイルス薬のタミフル、リレンザはウイルスが感染細胞から遊離するのを阻害し、他の砂防への感染を抑制し重症化を予防する。また葛根湯、麻黄湯などの漢方薬はサイトカインの産生を抑制し全身の過剰な免疫反応を抑制することにより感冒症状を軽くする。このため漢方薬は「周りの人がインフルエンザの罹った」というような場合など潜伏期から使用しやすい。インフルエンザのワクチン接種は最も有効な手段と考えられているが、インフルエンザには異なる型があるため通年の型のワクチンは新型には効果は少ない。また新型インフルエンザは過去の免疫がないため、新型のワクチンでも1回接種では効果が確実ではないと考えられる。

インフルエンザウイルスは飛沫感染(つば、くしゃみなど距離2～3m以内)と接触感染(ドアのノブ、手摺りなどから手、目鼻口の粘膜へ)が主で、空気中を漂い吸入される空気感染は少ないとされる。つまり非常に混雑した場所やごく近くに感染者がいる状況でのマスク使用は有効である。また外出時には極力手で顔を触らないようにすることが必要である。

実際のところ感染を防ぐことは家に籠城でもしなければ困難であるが、通常健康な人であれば数日で自然治癒する病気である。「罹ったかな？」と思ったら葛根湯、麻黄附子細辛湯などの漢方薬の内服を行い養生する。基礎疾患のある人は症状からインフルエンザが疑われれば(発熱、のどの痛み、倦怠感。検査薬は初期では陰性になることがある)抗ウイルス薬の内服を行うのが良いと思われる。当然、脱水、意識障害(脳症)や肺炎などには十分に注意が必要である。